

平成 27年度 第 4 期『耕人塾』を振り返って

今回の研修で、第 4 期の『耕人塾』が終了します。今年度は、塾生 31 名、指導委員 24 名、指導補助員（大学生）11 名、運営委員 14 名、協力者 10 名、総勢 90 名の大所帯で活動しました。塾生の中には、生徒会行事や部活動の大会等で毎回出席できない人もいましたが、自分の置かれた環境の中で、極力参加していただいたことに敬意を表します。また、塾生を送り迎えていただいた保護者の方々に心から感謝申し上げます。

今年度は「世界に誇れる石巻地域にしよう」といテーマの下、「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」の実践活動に主眼を置き、7 月には各班の試し活動で石巻駅～立町通り（一部漫画館）や開成仮設団地周辺のゴミ拾いを実践しました。8 月は、試し活動の報告会を踏まえて、班ごとの実践活動を実施することにより、さらに深まりのある積極的な活動になりました。班によっては石巻駅構内のトイレ掃除を実践した班もあり、駅長さんから感謝の言葉をいただきました。

8 月後半の宿泊研修では、「世界に誇れるあいさつ」、「究極の清掃」、「座禅体験」、「礼法の実践」などを学びました。グループごとに作ったカレーライスはそれぞれに味が工夫され、格別でした。また、班ごとの創作ダンスの発表は楽しいひと時でした。今年度初めての試みだった P4C（ピー・フォー・シー：子どもの哲学）には夜間にもかかわらず、宮城教育大学の庄子修先生においでいただいて、自己を見つめ、互いの和を形成する演習に取り組みました。

10 月は全体での実践活動ということで、石巻駅周辺（10/3 土 7:30～8:45、43 名参加）、矢本駅周辺（10/10 土 7:30～8:45、20 名参加）、女川町駅周辺（10/17 土 7:30～8:15、27 名参加）のゴミ拾い活動を実施しました。ご家族で参加したり、友達を連れて参加したりした人もいて予想の人数をはるかに超えました。石巻駅では市教委の指導主事先生や矢本駅では工藤教育長さんが一緒に活動してくれました。女川駅では須田町長さんも激励に駆けつけてくれました。

10/17(土)の国際理解では 3 名の外国の方をお招きし、「外国人が見た日本」という題でパネルディスカッションをしていただき、日本人としての生き方を見直すきっかけになりました。11/14(土)の日本の伝統文化では、表千家教授の石田邦子先生から「おもてなしとは」という講話の後、お弟子さんのご指導の下にお点前をいただくことができました。

多くの方々のお陰で、第 4 期『耕人塾』が大きな成果を上げて無事終了したことに感謝いたします。今年度の成果と反省を踏まえ、運営委員の方々のご意見をいただきながら、指導委員の力を結集して、第 5 期をさらに充実した『耕人塾』にしていきたいと考えています。

「人間という奇跡を生きる」

遺伝子工学で世界をリードする筑波大学名誉教授の村上和雄氏は「人間の持っている遺伝子情報は、1 粒の米を 60 億に分けたほどの極小スペースに、1 ページ千文字で千ページある大百科辞典 3 千 2 百冊分が入っている」と言っています。また、宇宙物理学の世界的な権威である神奈川大学名誉教授の桜井邦朋氏は「水素の質量の 0.7 分がエネルギーに転換して放出され、それによって太陽は輝いている。水素のエネルギー転換が 0.71 でも 0.69 でも、生命は生まれてこない」と言っています。私たち一人ひとりの生命は無数の奇跡によって今ここにあります。自分というかけがえのない人生をどう生きるか。そして、人のためにどう生きていくかということが大切なのだと思います。